

記念講演（講師の経歴）

演題 「大中魂で戦える」～サッカー選手育成活動を通して～

吉武 博文（よしたけ ひろふみ）氏（高校31期）



昨年夏、なでしこJAPANのW杯初制覇と同時期に男子U-17サッカー日本代表は灼熱のメキシコでU-17W杯ベスト8に輝きました。「まるでFCバルセロナ」、各メディアから最強クラブに喩えられたU-17日本代表チームをつくりあげたのがサッカー部OBの吉武博文さん(31期)です。

吉武さんとの出会いは、サッカー部のOB／現役として母校のグラウンドでボールを追いかけた30年前にさかのぼります。「ポジションはあってないようなもの」というチームコンセプトに基づく組織力と多彩な攻撃で世界から絶賛されたU-17代表チームの原点は、まさにその30年ほど前、春・夏の合宿で繰り返された母校のグラウンドでのOB戦、夜ごと記念館や都町でたたかわされた熱いサッカー談義にあると信じて疑いません。「選手をあるポジションに縛り付けない」、「ゲームの流れを個々の選手が感じ取り自主的にその状況へチームとして対応する」、「誰が試合に出てもチーム力が変

わらない」。U-17代表チームを表現したこれらの言葉は、現役時代にいやというほど戦ったOBチームにもあてはまります。卒業してOBチームの一員となり、サッカーの面白さをそれまで以上に強烈に実感しました。6年後輩として、現役時代には上手すぎて相手にならず、同じOBとなってからはその熱いサッカー論、教育論に太刀打ちできなかった吉武さんと同じグラウンドで時を過ごしたこと、誇らしく思います。

中学教師、大分トリニータのコーチとして、吉武さんは永井、三浦、清武といったJリーガー、日本代表選手を育ててきました。でも普通の指導者と異なる点は、難関の試験を突破してプラハの日本人学校で3年間海外派遣教師をし、小・中高(数学)の他に盲学校、養護学校の教員免許や教育心理学の修士号も取得した、その様々な教師体験に基づく選手育成のスペシャリストとしての指導論にあります。

今年の9月、吉武さんは再度U-16代表チームを率いて来年のU-17W杯出場権をかけ、イランでアジア最終予選を戦います。本総会では、世界を舞台に戦った体験をご講演いただくとともに、アジア最終予選、さらにU-17W杯本大会でのご活躍を在京同窓生の皆さまとともに祈念いたしたいと思います。

(在京同窓会事務局 サッカー部OB 37期 村谷 浩二)

略 歴:

昭和51・53年 大分上野丘高校1・3年 サッカー部インターハイ出場
昭和52年 大分上野丘高校2年 国体出場
昭和58年 大分大学卒業後、蒲江町立深島中学校赴任(数学)
昭和60年 大分市立明野中学校を率いて全国中学校サッカー大会優勝
平成4年 チェコ・プラハ日本人学校へ海外派遣(～平成7年3月)
平成8年 大分大学大学院 内地留学(平成10年3月 修士・教育学修了:教育心理学)大分トリニータU-15コーチ
平成13年 日本サッカー協会公認S級コーチ取得
平成15年 盲学校教諭2種免許状 取得
平成16年 養護学校教諭2種免許状 取得
平成18年 教職公務員退職(日本サッカー協会専任)
平成22年 U-16日本代表監督、アジア最終予選4位にて2011 U-17W杯出場権獲得
平成23年 U-17日本代表監督、U-17W杯メキシコ大会ベスト8
平成24年 U-16日本代表監督 ⇒ 9/21～:2013 U-17W杯アジア最終予選(イラン)に出場予定

教え子

永井 秀樹 (明野中⇒国見高⇒国士舘大⇒ヴェルディ、フリーゲルス、マリノス、エスパルス、FC琉球等)
三浦 淳宏 (明野中⇒国見高⇒青山大⇒フリーゲルス、マリノス、ヴェルディ、ヴィッセル横浜FC)
永井 篤志 (明野中⇒国見高⇒駒沢大⇒アビスパ、山形、仙台、FC琉球)
福元 洋平 (U-14代表、U-17代表、U-18代表(主将)⇒トリニータ、ガンバ、ジェフ)
清武 弘嗣 (U-15代表、U-16代表、U-17代表⇒トリニータ、セレッソ(現U-23五輪代表& A代表))